

Advance

メタ認知の芽生え

釧路交換留学や市役所でのインタビュー、にじの丘中学校との交流、そして商店街での探究活動.....もちろん校内での来客対応も含めて、7年生の子どもたちはこの2週間、本当に多くの挑戦と出会いの中で、たくさんの「自分」と向き合ってきました。

こうした活動のひとつひとつにおいて、子どもたちは自分の役割を理解し、「どうありたいか」「どんな姿を見せたいか」を考え、行動に移していました。それはまさに、「自分を認識している自分」を意識する力【メタ認知】の芽生えであると強く感じています。

メタ認知力という言葉をご存知でしょうか。

一言でいうと「何かを認識している自分」を認識する能力です。

このメタ認知能力を活用する例として「自分が何かを成し遂げたいときにはまず、成功のイメージを描く」ということが挙げられます。

アスリートであれば、「完封勝利する」「満点の演技をする」シーン、ビジネスならば「プレゼンテーションを成功に導く」「新しい企画をやり遂げてメンバーで祝杯をあげる」といったシーンを思い描くのです。

そのシーンがより具体的である方が、成功への近道になります。

あたかも自分が映画の主人公になっているかのようにイメージできるくらいが理想です。

ビジネスでも「二度目は常に一度目よりも簡単である」と言われますが、実際に経験していなくても、それに近いシミュレーションをすれば、経験したのに近い「経験値」が加わることになります。そして、それは自信につながります。

アスリートが言う「イメージトレーニング」は、同じ効果を狙っているものです。

参考：「99%の人がしていないたった1%のメンタルのコツ」
河野英太郎 / 田中ウルヴェ京：著（ディスカヴァー）

7年生は今、教科の学習やプロジェクト、個人探究において、対外的なミッションが増えています。これは、子どもたちにとって決して簡単なことではありませんが、だからこそ、かけがえない「学び」と「成長」のチャンスでもあります。

そして、こうした挑戦の機会が成り立っているのは、日々、保護者の皆さまが温かく見守り、支えてくださっているからに他なりません。送り出す朝のひと言や、帰宅後のさりげない声かけ、そのひとつひとつが、子どもたちの内面の強さにつながっているのだと感じています。

家庭と学校が同じ方向を向き、一枚岩となって子どもたちを支えていることが、7年生のたくましい成長の土台になっています。改めて感謝申し上げます。

その中で子どもたちは、「SOLANの学びを伝えたい」「相手の心に届くインタビューをしたい」「一人の自立・自律した学習者としてふるまいたい」そんな前向きなイメージを自ら描き、それを実際の行動に移しています。

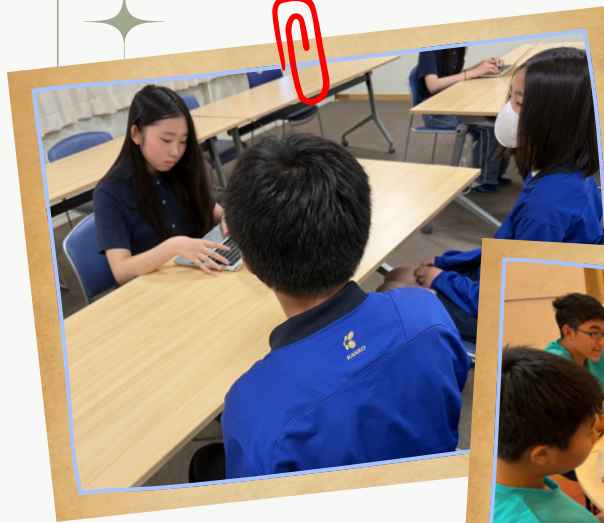
「あたかも映画の主人公になったかのように理想の自分を思い描く」子どもたちのそんな姿勢が、次なる挑戦への原動力となり、確かな自信へとつながっていきます。そのプロセスを、私たち大人も共に喜び合えることこそが、何よりの幸せだと感じています。

これからも、子どもたちの歩みを家庭と学校で支え合いながら、ひとつひとつの挑戦を温かく見守り、共に未来を描いていけたらと思います。引き続き、あたたかいご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

We will value "Purpose" and "Ownership" for you

Advance

OneStoneの学生との交流



にじの丘中、
市役所、企業
の方との交流

給食当番も
清掃も自立へ

We will value "Purpose" and "Ownership" for you